

<金標準、インフレ抑止の終了観測で 9500 円へ・・・>



(出所：オアシス)

今年最後の FRB、ECB、日銀の金融政策イベントが終了し、FRB はインフレ抑制終了観測、ECB はインフレ抑制を続け、日銀も金融緩和策の継続を示唆している。また FRB がインフレ指標として重要視する PCE デフレーターでは、前月比で -0.1% と 2020 年 4 月以来の低水準の伸びを示し、コア価格指数は 6 ヶ月間の年率ベースでは上昇率が 1.9% と FRB が目標とするインフレ率 2% を若干ながら下回るなど、FRB は一足早いクリスマス・プレゼントを頂いた形である。その事は、FRB が示す 2024 年 3 回の利下げの根拠を示す内容となっている。そのため「金利を生まない金」にとって投資環境が整い、FRB の利下げ開始を受けたドル安の動きに 2024 年の NY 金を史上最高値へ更新する可能性は高まると思われる。

ただ大阪取引所の金標準先物は円建て取引であり、円高の悪影響を受けて高値更新は望めないと思える。そのため目先は 9500 円に向けた自律反発の域を続け、上値が重たい値動きを今しばらくは続けると思われる。

<テクニカル>

金標準先物の日足の MACD や RCI では、MACD は **MACD** が切り上げながら、**シグナル** は下げ渋るなど強気のクロスが発生している。RCI では **短期** が上昇し、**長期** は下げ渋るなど、目先は **40 日移動平均線** が位置する **9505 円** で高値が抑えられる値動きに思われる。

このレポートはお客様への情報提供を目的としています。情報に関しては正確を期するよう最善を尽くしておりますが、内容の正確性、信憑性に関し保証をするものではありません。利用にあたっては自己責任の下で行って下さい。売買の判断はお客様御自身で行って下さい。

○商品デリバティブ取引は最初に委託者証拠金等の預託が必要で、その額は商品によって異なりますが、最高額は1枚当たり通常取引 2,470,000 円(2023 年 12 月 25 日現在)です。また、委託者証拠金は相場変動や日数の経過により追加預託が必要になることがあり、その額は商品や相場の変動によって異なります。○商品デリバティブ取引は相場の変動によって損失が生ずることがあります。また、実際の取引金額は委託者証拠金の約 10 倍から 70 倍と著しく大きいため、損失額が預託している委託者証拠金の額を上回ることがあります。○商品デリバティブ取引は委託手数料がかかり、その額は商品によって異なりますが、最高額は 1 枚あたり往復 81,840 円(2023 年 12 月 25 日現在)です。手数料額は相場変動により増減する場合があります。

当社(商品先物取引業者)の企業情報は当社本・支店及び日本商品先物取引協会が開示しています。お取引についての御相談は、当社顧客サービス担当(東京)電話 03-5540-8423 (受付時間:平日 8:30~17:30)
証券・金融商品あっせん相談センター <https://www.finmac.or.jp> 日本商品先物取引協会相談センター
<https://www.nisshokyo.or.jp>